

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

白山から日本海まで 交流・連携・協働による活力あるまちづくり計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

石川県、白山市

## 3 地域再生計画の区域

白山市の全域

## 4 地域再生計画の目標

白山市は石川県加賀地方の中央部、県都金沢市の南西部に位置し、白山国立公園や県内最大の流域を誇る手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域であり、平野部から山間部までおよそ2,700mの標高差がある。松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の8市町村が平成17年2月1日に合併し、総面積は755.17k㎡であり、石川県全域の約18%を占め、市町域としては県内最大の広さとなっている。

これまで、松任地域は金沢のベッドタウンとして住宅団地や工業団地の造成を進め、美川地域は北前船や石川県庁跡地など歴史の町として、また、鶴来地域では白山神社の総本社となる白山比咩神社や獅子吼高原を中心に、特色あるまちづくりを進めてきた結果、これら平野部においては人口が増加傾向にある。

一方、山間部である白山ろく地域（河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰）においては、それぞれスキー場と温泉を核とした観光地づくりを進めてきたが、少子・高齢化による過疎化の進展が深刻な問題となっている。

また、長引く景気低迷の影響などから観光客の入り込みが低調であり、交流人口の拡大に向けた新たな地域資源の掘り起しや活用などによる個性ある地域づくりが求められている。

さらに、交通体系の整備促進、広域的な施設の有効利用に加え、居住地からJR松任駅、公立松任石川中央病院、松任総合運動公園、各工業団地、商業施設などの基幹的施設や北陸自動車道へのアクセス改善、舗装や橋梁の計画的な補修・補強、通学路等での道路幅員が狭隘な箇所での歩行空間確保を図ることによって、地域住民が心豊かに安心して暮らせる地域づくりを進めるものである。

山間部については、そのほとんどが森林であり、本市面積の約84%を占めているが、林業従事者の減少や高齢化に伴い、手取川の水源森林が放置され、荒廃が進

行している状況であり、林業経営だけでなく、住民の生活に関わる森林の公益的機能の低下が懸念される状況となってきた。このため林道網の整備を行うことにより、事業の効率化が求められている。

さらに、景気の停滞と相まって、地域の活力が失われていることが課題となっているため、広く住民が森林浴や散策などにより、森林に触れ合うことのできる環境を整備することにより、グリーンツーリズムなどの体験型観光やエコツーリズムを推進し、各地域間の住民同士、また、本市を訪れる人と地域住民との相互理解を深め、自然の恵みが満喫できる地域づくりを進め、活性化を推進することが求められている。

こういった広域的な市町村合併の課題に対応するため、平成19年度に策定した「白山から日本海を一つに」8つの魅力のスクラム再生計画を基に、交通の利便性の向上などに努め、市内外の交流を活発化するために必要な事業を推進してきたところ、一定の効果が見られたものの当初目標の交流促進による白山ろく地域の入り込み客数の増加には至らなかった。

今後は、平成26年度に開業を予定している北陸新幹線の長野・金沢間のフル規格化及び白山総合車両基地の整備にあわせて、金沢駅開業に向けて石川県が策定したアクションプラン「STEP21」を官民が連携し、観光客の増加による消費増大や産業の活性化など、開業効果を最大限に引き出す各種施策に取り組み、さらなる交流・連携・協働による活力あるまちづくりが必要である。

- (目標1) 都市部と山間部の交流促進並びに他地域からの来訪促進  
(白山麓地域入り込み数客の10%増加、現行188万人)
  
- (目標2) 工業団地へのアクセス道路整備による企業進出促進に伴う  
製品出荷額の増加  
(白山市内の工業製品出荷額 10%増加 現行4,321億円)
  
- (目標3) 道路整備による松任拠点施設へのアクセス向上  
(鶴来・白山地区からの時間短縮 2分)
  
- (目標4) 除間伐実施面積の増加  
(現行58haを75ha)

## 5 地域再生を図るために行う事業

### (5-1) 全体の概要

市道部入道安養寺線やM-255号線は、国道157号と野々市市新庄地内（加賀産業開発道路）を直結する基幹的路線や県道鶴来美川インター線へ連絡する道路であり、道路拡幅並びに歩道の設置を行うことにより、歩車道分離による安全性の向上を図るとともに、松任地域へのアクセスを確保する。

井口森島線や美川松本線などは、沿道が人家連担部や商店街を形成する生活に密着した道路であり、舗装改良を行うことにより、走行性・利便性の向上を図り、日常生活圏での交流促進が見込まれる。また美川ボディー横線外における橋梁補修を計画的に実施することにより沿道利用者の利便性の確保を図る。

市道中央1号線、宮丸北安田線及び新田徳丸線外4路線は、防災上危険な人家密集地で通学路にも指定されており、幅員の狭隘な区間の解消を目的とした現道拡幅を行うことにより、緊急車両の進入路を確保するとともに、通学する児童の安全性向上を目指す。

吉野谷地域における林道高倉山線は、利用区域内森林が手取川上流域に位置し、水源地域の森林の適切な整備及び保全を図り、効率的かつ安定的な林業経営を確立するための林道である。市道下木滑1号線、市道中宮15号線、国道157号線、国道360号線と連絡することによって、森林の総合的な利用による都市と山村の交流が見込まれるとともに、災害時の迂回路などにも活用が可能になる。

白峰地域における森林基幹道白木峠線は、小松市と白山市を結ぶ路線であり、広大な利用区域内の森林整備により、県土の保全や良質な水資源確保に資する林道である。国道416号、国道157号及び林道赤谷線に連絡することによって、地域間交流の推進が見込まれるとともに、災害時の迂回路などにも活用が可能になる。

また、林道赤谷線は、利用区域内森林が県下最大の手取川ダムの水源地にあたることから、森林整備の推進により、良質な水資源確保に資する重要な役割を果たしている林道である。市道赤谷線、国道157号線及び林道白木峠線に連絡することによって、地域間交流の推進が見込まれるとともに、災害時の迂回路などにも活用が可能になる。

白峰地域における林道三ツ池線は、赤谷線と同様に手取川上流域に位置し、水源地域の森林の適切な整備及び保全を図り、効率的かつ安定的な林業経営を確立するための林道である。国道157号に繋がる市道三ツ池高原線に連絡することによって、近接地にある白山恐竜パーク白峰と連携して、散策や学校の野外活動、自然教育の場としての利用の増加が見込まれる。

## (5-2) 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

### 道整備交付金を活用する事業

対象となる事業は、以下のとおり事業開始に係る手続き等を完了している。なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・市道：道路法に規定する市道として下記のとおり道路認定済み。
  - ①市道中央1号線 (昭和62年 3月20日道路認定)
  - ②市道宮丸北安田線 (昭和48年 9月20日道路認定)
  - ③美川ボディー横線外42路線  
(昭和47年10月 6日道路認定)
  - ④市道部入道安養寺線 (昭和62年 3月20日道路認定)
  - ⑤市道井口森島線外5路線 (昭和62年 3月20日道路認定)
  - ⑥M-255号線 (平成12年 3月 1日道路認定)
  - ⑦美川松本線外1路線 (昭和62年 3月19日道路認定)
  - ⑧新田徳丸線外4路線 (昭和35年 3月22日道路認定)
  
- ・林道：森林法による加賀地域森林計画（平成23年樹立）に路線を記載。

### [施設の種類の種類（事業区域）、事業主体]

- ・市道（白山市） 白山市
- ・林道（白山市） 石川県、白山市

### [事業期間]

- ・市道（平成24年度～28年度）
- ・林道（平成24年度～28年度）

### [整備量及び事業費]

- ・市道 11, 482m、林道 5, 130m
- ・総事業費 2, 506, 600千円（うち交付金1, 253, 300千円）
  - 市道 1, 712, 600千円（うち交付金 856, 300千円）
  - 林道 794, 000千円（うち交付金 397, 000千円）

### (5-3) その他の事業

#### 5-3-1 基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 基本方針に掲げられた支援措置によらない独自の取り組み

白山市では、地域再生法による特別の措置を活用するほか、以下の他分野にわたる事業と連携し、総合的に地域づくりに取り組んでいる。

- ・北陸新幹線白山総合車両基地整備事業

北陸新幹線長野・金沢・白山総合車両基地間がフル規格で建設中であり、平成26年度末の開業が予定されている。開業により、首都圏と金沢間の輸送時間の短縮、観光や各種産業の活性化など、交流の拡大や経済効果などが見込まれる。

また、白山総合車両基地の整備と併せて、(仮称)白山駅の整備を関係機関に要望し、県・市・地域の連携による「STEP21」の推進や二次交通の実証実験など開業に向けた取り組みを図る。

- ・JR松任駅南整備事業

松任駅前地区を緑豊かな中に文化の薫りがする「文化シンボルゾーン」として位置付け、白山市にふさわしい玄関口として都市基盤の整備充実を図るとともに、駅前の良好な街並み形成や文化施設を集積し、中心商店街との回遊性も高め、駅周辺のにぎわい創出を目的としている。

- ・北陸自動車道白山インターチェンジ開設事業

白山ICは、金沢外側環状道路(海側幹線)の整備に併せて、北陸自動車道と交差する白山市中新保・金沢市福増町に建設中で、平成24年4月に同時供用開始を予定している。周辺には、横江・旭をはじめとした複数の工業団地が立地するため、物流の効率化が図られ、地域経済の活性化や渋滞の緩和が見込まれる。

- ・スマートIC開設事業

徳光PAは北陸自動車道金沢西ICから7.8キロ、美川ICから4.4キロの日本海に面しており、松任CCZ区域内に位置している。この区域は松任

海浜公園や松任海浜温泉、通年型複合観光施設などが設置され、年間270万人の利用者がある。このような中で、北陸自動車道の有効活用や地域の利便性向上を目的として、平成17年4月11日からスマートICを供用している。社会実験開始以降、利用台数は着実に増加し、時間短縮効果や利便性向上などの効果を発揮している。

- ・白山手取川ジオパーク

白山手取川ジオパークは、白山や手取川、手取峡谷など大地の地質遺産や多様な自然遺産、文化遺産をジオ資源と位置付け、保全と活用に取り組むもので、「山―川―海そして雪のいのちを育む水の旅」をテーマに、平成23年9月に日本ジオパークの認定を受けた。今後、テーマに沿って見どころを集めたジオパークの情報発信施設やビューポイントなどの基盤整備を図るとともに、ジオツーリズムの積極的な推進とふるさと学習への活用により地域づくりを推進し、交流人口の増加による地域経済の活性化を図り、世界ジオパークへの早期認定を目指している。

- ・広域的な観光連携

環白山地域、福井県県境地域との連携による観光PRイベントの共同開催や転泊、連泊ができる旅行プランの提案、観光パンフレットの作成及び広域観光看板の設置など、広域的な観光振興を推進するための連携事業を行っている。

- ・白山ろく地域整備事業

地域振興の核である温泉とスキー場に加え、伝統的な街並み景観を有する白峰地区などの地域資源を活かし、魅力ある白山ろく地域を各種イベントの開催と連携した誘客宣伝活動を行っている。

さらに、河内地場産業センター、吉野工芸の里、一向一揆歴史館、ミントレイノ、白山恐竜パーク白峰などの地域資源を活用した施設を活用し、今後は市内を縦断する手取キャニオンロード（サイクリングコース）の活用による有機的なネットワークにより地域の活性化を図るものである。

また、農業振興策として、山村振興等農林漁業特別対策事業などを実施した結果、地元特産品やそばの販路が飛躍的に伸び、今では「白山麓そば街道」の名称がつくまでに成長している。

- ・白峰地区の魅力を活かした賑わいづくり事業

良質の温泉と伝統的街並み景観を活かした魅力ある白峰地区を演出するた

め、白峰温泉総湯と特産品販売施設を核として、地域資源を活かした各種イベントなどと連携した誘客宣伝活動を行っている。

また、白山高山植物園において栽培された高山植物の一般公開を行い、白山のイメージアップと誘客対策を行っている。

- ・ イベント開催事業

松任まつり、横江の虫送り（松任地域）、おかえりまつり、手取川夏まつり（美川地域）ほうらいまつり、ラジオまつり（鶴来地域）、清流まつり・ふじまつり（河内地域）、工芸の里フェスタ・白山スーパー林道ウォーク（吉野谷地域）、一向一揆まつり・そばまつり（鳥越地域）、一里野音楽祭・文弥まつり（尾口地域）、雪だるままつり・白山まつり（白峰地域）など、各地域で貴重な資源を活用した独創的なイベントが数多く開催されていることから、今後とも体験交流の目玉として活用し、地域の活性化を図っていく。

- ・ グリーンツーリズム事業

交流研修施設である白山里を拠点として、森林を活用した様々な体験プログラムのグリーンツーリズム事業を積極的に展開し、新たな山村地域の魅力創出による都市住民との交流拡大に努めている。

- ・ 情報基盤整備事業

白山麓地域は、平成18年度～平成19年度に高速情報通信基盤を整備し、地域内情報格差の是正を図られ、高速インターネットサービスや難視聴地域でもCATVによる視聴がほとんどの地域で利用可能となった。今後は、観光施設や公共施設に携帯端末のアクセスポイントを設置する無線LANの整備など、情報基盤の活用により、観光客はもとより地域住民にとっても様々な場面で恩恵を享受でき、住みよい環境の創出が期待されている。

- ・ どぶろく特区

古くから霊峰白山の伏流水を用いた清酒、醤油、酢、味噌などの醸造業が盛んである本市鶴来地域は、平成16年12月8日に「どぶろく特区」の認定を受けた。すでに農家民宿での「どぶろく」のふるまいによって、地域経済への波及効果が見られる。今後も地域住民の中から生まれる創意とやる気を大きく育てていくことを通して、地域の新たな活性化への方策を創造する。

## **6 計画期間**

平成24年度～28年度

## **7 目標の達成状況に係る評価に関する事項**

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に石川県と白山市で「地域再生協議会」を開催し、達成状況の評価、改善事項の検討などを行うこととする。